

2020. 12. 13. 「聖書預言・アップデート/次に来ることは？」

<https://www.youtube.com/watch?v=Dhb-faWprS0&t=560s>

『次に来ることは？』おはようございます。私たちの日曜礼拝へようこそ。これは、第一礼拝で、毎週「聖書預言・アップデート」を行っています。日曜日の朝は、二つの礼拝を行っています。第一礼拝は、「聖書預言・アップデート」、第二礼拝は、節ごとに学ぶ「聖書の学び」に捧げています。現在、「第二テモテ」を学んでおり、今日は主の御心なら、3章を学び終えます。ハワイ時間の11時15分からライブ配信します。皆さん、ぜひご参加ください。今日は、私たちが口論や議論に明け暮れると、クリスチャンとしての生活の中で何が起こるのかについてお話しします。是非ご参加ください。まだの方は、ぜひ新サイト「JDFarag.org」をご覧ください。第一段階を開始しました。まだ作業中です。皆さんのご忍耐に感謝します。第二段階の開始を願っています。その時には通知が届くようになります。多くの方が、なぜ通知が来ないのかとお聞きになっているのを存じています。皆様のご辛抱とお祈りに感謝いたします。最後に一つ、とても重要なことです。先週お伝えしましたが、今週も、建物のアンテナに関する祈りをお願いしたいと思います。私たちは法的に、契約解除のためにできる限りのことしました。私たち側に要求されたことは全て行い、法的に必要なことは全て済ませました。そして今は、主に委ねなければなりません。本当に、これは誇張ではなく、この建物からアンテナを撤去するには奇跡が必要です。ですので、私たちはこのお祈りをお願いしています。具体的に、もしよろしければ何度でも祈ってください。そして、主が思い出させてくださるように、非常に簡単に、非常に具体的に、「主よ、この食事を祝福してください。そして、あの建物からアンテナを撤去してください。」それだけでいいのです。神は、既にこの状況をご存じなので、私たちは、神に説明する必要はありません。どういうものかご存じですよ？ 私たちは主に、指示的な祈りを捧げてしまいます。指示的な祈りが何かご存じですか？ それは、あなたが祈るときに、その祈りにどう答えるかを神に指示することです。皆さんそうはなさいませんか。私もしませんよ。しかし、私たちにはそういう傾向があります。ですので私たちは、彼らがアンテナ撤去のため、新しい場所をできるだけ早く特定できるよう、具体的に祈っています。そうすれば、現在雨漏りをし、建物に害を与えている屋根の修理ができます。皆さんのお祈りに感謝します。では、本題に入りましょう。今日は盛りだくさんです。今日のアップデートでは、今の世界の全出来事が迅速に起こっている中で、『次に来ることは？』という質問に、に答えたいと思います。さて、『次に来ることは？』という質問に対する答えは、最終的には、イエス・キリストの人となりに関する重要な全ての質問への答えにかかっています。イエス・キリストの救いにたどり着いている方にとって、次に来るのは、「携挙」です。イエス・キリストの救いにたどり着いておられない方にとって、次に来るのは、「7年間の患難」です。そういうことなので、祈りで締めくくりましょうか。いえいえ、早まってははいけません。率直すぎるかもしれませんが、それが真実です。それほど簡単なことなんです。簡単すぎないことを願っています。核心はこうです。このような言い方をするのは嫌いですが、私たちは皆、2つのカテゴリーのいずれかに分類されます。救われているのか、救われていないのか。それだけです。極めはそこなんです。結論はそこなんです。これが核心です。先週、考えていました。実際のところは、最近、色々な事が起きている中で、かなり前から気になっていたことですが、私は人を見るときに、あの国籍かこの国籍か、地元出身か本土出身か、共和党か民主党か、左派か右派か、保守的カリベラルか、

という見方をしません。私は人々を、救われているのか失われているのかで見ます。そのように人々を見ると、彼らに対する私の心の全てを変えるのです。人々は敵ではありません。しかし敵は、私たちに彼らを敵として信じさせようとします。サタンがしていること、そして付け加えますと、成功していることは、私たちが互いに戦わせ、彼のために、彼の代わりに、彼の汚い仕事をするように仕向けたことです。私たちは、血肉の人間と戦っているではありません。むしろ、使徒パウロが「エペソ6章」で列挙している4つの存在、悪の領域の、天にいる悪と戦っているのです。これは、霊的な戦いなのです。人間の魂のためのものです。つまり、携挙が起こる時、そして実際携挙が起こりますが、取り残された人々は、人類歴史最後の7年、言葉にできない恐ろしい患難時代に入ります。そして、彼らが反キリストのしるし・マークを拒否し、拒絶するなら、イエス・キリストのために死に直面します。それが起こります。携挙後患難時代にイエス・キリストを受け入れない人には、ある可能性があります。私たちは彼らを、愛を込めて「患難時代の聖徒」と呼んでいます。しかし、7年間の患難時代に、イエス・キリストの救いを得ない人は、永遠に地獄で過ごすこととなります。願わくば、私たちは人々を、永遠という観点から見るべきだと思います。具体的には、彼らがどこで永遠を過ごすのかという観点です。救われているなら、永遠に天国で過ごします。救われていなければ、永遠に地獄で過ごします。これは、首筋の毛が逆立つことです。まだ逆立つ毛が残っている人は、ですが。ゾッとしますよね？その通りです。そして、これが肝心なことです。教会携挙は、私自身も含めて、誰も認識できない程に近づいていると、私は心から信じています。そして、教会携挙がそれほど近づいているなら、そしてそうですが、それが意味するのは、7年の患難がまさに始まろうとしているということです。私たちは、イエス・キリストの教会携挙に続く、7年間の患難の始まりの寸前にいます。さて、お許しただけなら、私たちが間違いなくその時に差し迫っている理由について、聖句から、できるだけ簡単に、わかりやすく説明したいと思います。そのために、まずは聖書の中で最初であり、また最も重要な預言の一つから話し始める必要があります。そして、それは「創世記3章15節」にあります。ここで神は、既にアダムとエバに呪いを宣告されていますが、次に、蛇であるサタンに目を向け、呪いを宣告されます。それがこの節の中にあります。とても多くのことが詰め込まれています。なので、ベストを尽くして紐解いていきます。主なる神は仰せられました。15節です。

創世記3章

15 お前（蛇）と女、お前の子孫（種）一覚えておいてくださいーと女の子孫（種）の間にわたしは敵意を置く。

ちょっと待ってください。何ですって?! 女に種はありません。そうですそれは、処女降誕です。それは、処女から世の救い主が生まれるという預言です。なぜならそれは女の種ではなく、男の種によって受精された卵子です。それが処女降誕です。神は、この呪いをサタン（蛇）に宣言されました。そしてこう仰いました。

「彼（イエス）はお前の頭を砕き、お前（サタン）は彼のかかとを砕く。」

私はこれが、十字架刑を意味していると信じています。そして、よみがえられた後、サタンは完全に打ち砕かれました。サタンは、頭を砕かれました。言わば、蛇の頭をさて、皆さんには、よく見落とされがちな「蛇の種」についての記述に注目していただきたいと思います。私たちは通常、当然のことながら、「女の種」に焦点を当てます。なぜならそれが処女降誕だからです。愛情を込めて、『プロトエヴァンゲリウム/原福音』と呼ばれています。福音、イエス・キリストにある救いの良い知らせに

関する初めての記述です。そして、見落とされることが多いのは、この「サタンの種」についての記述です。これは一体どういうことでしょうか？ 今日、皆さんと共有するために主が私の心に置いてくださったことを理解するのに役立つはずなので、見ていきたいと思えます。これは人類の歴史の中で、サタンがいかにして、自分の種と思われるものを使い、人間の DNA を墮落させようとしてきたかを物語っています。考えてみてください。サタンがこれに成功したとしたら、彼は事実上、人間の DNA を墮落させることになり、それはもはや人間ではないことを意味します。どうかお聞きください。このように、人間の DNA が人間ではなくなってしまうと、人間はもはや、贖われることはありません。これは、イエスが「人間」を贖うために、完全な「神」として、完全な「人間」として来られたという事実の観点からです。ですから、人間の DNA が人間ではないとしたら、それは贖いの範囲外です。それが、この裏にある「理由」です。さて問題は、「サタンの種」が人間の DNA を墮落させたという聖書の証拠があるかどうかです。そして答えは、間違いなくある、ということです。再び「創世記」を見れば一目瞭然です。今度は6章です。1節から4節を読みたいと思えます。

創世記6章

「さて、地上に人が増え始め、娘たちが生まれた。神の子らは、人の娘たちが美しいのを見て、おのおの選んだ者を妻にした。」（1～2節）

「主は言われた。『わたしの霊は人の中に永久にとどまるべきではない。人は肉にすぎないのだから。』こうして、人の一生は百二十年となった。」（3節）

4節、お聞きください。

「当てもその後も、地上にはネフィリムがいた。これは、神の子らが人の娘たちのところに入って産ませた者であり、大昔の名高い英雄たちであった。」

率直な言い方をお許してください。これらは悪霊たちで、人間の女性と性交渉をし、その女性から子供を産ませていました。そうすることで、前述の理由から、最初からのサタンの目的だった、人間の DNA を墮落させたのです。ノアの時代に、神が洪水で地球を滅ぼされたのは、人間の DNA が壊れていたからです。「創世記」6章の8節から12節まで読んでみましょう。

創世記6章

「しかし、ノアは主の好意を得た。これはノアの物語（系図/ genealogy）である。（ノアの遺伝学、ゲノム。）その世代の中で、ノアは神に従う無垢(perfect)な人であった。」

ノアが完璧(perfect)だったという意味ではありません。完璧な人は、いません。イエス様だけが完璧だったのです。ノアのことを指しているこの「無垢」(perfect)という言葉は、「損なわれてない」と意味です。つまり、ノアの遺伝子、ゲノムは、人間的に損なわれていなかったのです。そういう意味です。「その世代の中で」(9節)とあります。またしても基語は、遺伝子、世代、遺伝、世代的です。

10 ノアは神と共に歩んだ。ノアには三人の息子、セム、ハム、ヤフェトが生まれた。

11 この地は神の前に墮落し、不法に満ちていた。

12 神は地をご覧になった。見よ、それは墮落し、すべて肉なる者はこの地で墮落の道を歩んでいた。

もう一つ別の質問があります。質問は、それが、今の私たちとどう関係があるのかということです。聞いてくださりうれしいです。ありがたいことに、イエスご自身が「マタイの福音書24章37節」の預言の中で答えを提供されています。イエスが仰っています。「人の子が来るのは、ノアの時と同じだ

からである。」ノアの時代と現代の間には多くの類似点がありますが、現代の人間のDNA崩壊ほど、預言的に重要なものはないと思います。ここに理由があります。今の世界がノアの日のものであるなら、そして実際そうですが、サタンはDNAを崩壊させる種を、用意しておかなければなりません。彼は、用意しています。どのようにしてでしょうか？ それは、DNAを崩壊させる種の入った、未来のワクチンという方法です。私が、「未来の」という訳は、現存のワクチンは、まだ黙示録で預言されている獣のしるしではないからです。理由はこうです。まだ獣のしるしでない理由は、聖書預言によると、反キリストが崇拜を要求し、すべての人の額や手のひらに彼の刻印を強制し、それが人々の永遠の運命を決定づけ、宣告するからです。点と点が繋がりましたか？ なぜなら、彼らのDNAは、もはや人間ではないので贖われることはありません。罰せられるのです。これが、まさにサタンが成し遂げたいことであり、患難時代に大々的にそれを成し遂げます。これを預言的に語っている聖句がたくさんあります。「ダニエル書9章27節」、「第二テサロニケ人への手紙2章」そして特に「黙示録13章16節～17節」です。「ヨハネの黙示録13章16～17節」で興味深いのは、しるし・刻印は強制され、強要されると語られています。それが鍵で重要です。そして、そのことを言及し、強調した理由は、私は、この強制と強要は既に始まりかけていると思うからです。この質問を何度かしたと思います。最後にしたのは先週、たぶん毎週のようにしているかもしれません。ということで、今週もう一度お聞きしたいと思います。皆さん、興味深いと思いませんか？ このワクチンを受けるために、誰も列に並んでいません。実際、それとは逆のことが起こっています。私がニュースフィードで見かけるものを、皆さんも同様に目にされていると思いますが、それを表す言葉、フレーズがあるそうです。皆さんお気づきかどうかわかりませんが、私たちのようにワクチンを受ける気がない人が、何と呼ばれているのかご存じですか？ 今は、『ワクチンためらい者』と呼ばれています。躊躇い？ 控えめな表現ですよ。私たちに貼られたもう一つのレッテルは、『ワクチン反対派』です。「だめだ！あなたはそのうちの一人なのか！！」「そうだ！！」すみません。ちょっと興奮してしまいました。おそらくこれは良い機会ですので言わせていただくと、個人的には、私は絶対にこのワクチンを受けません。皆さんがどうすべきか、私は決して言うつもりはありません。しかし私は、このワクチンは絶対に受けません。このワクチンを受けなければ、生活が脅かされる人たちがおられることは理解しています。そして、よく聞かれる質問の一つは、「ワクチンを受けたら獣のしるしを受けることになるのか？」ということです。これ以上明確に言うことはできません。違います。まだ獣のしるしではありません。そして、因みに、神の御霊によって新生していればあなたは証印を押されています(seal)。決定事項(done deal)です。韻を踏んで、契約締結(seal the deal)です。いいですね、気に入りました。とにかく、失礼しました。質問に戻りましょう。納得がいきませんか？ もしこのウイルスが… 私はウイルスが存在することは信じてますが… ちなみに補足させていただきます。ここでまごつかせてしまってすみません。「ここで？いつもですよ。」そうですね(笑)ご存じかどうかはわかりませんが、CDC(アメリカ疾病予防管理センター)は、これに先立ち”パンデミックとは何か”の定義を変えたことです。これはパンデミックではありません。パンデミックはないのです。ウイルスはあるのか？ 私はあると信じてます。しかし、これは別の質問をもたらします。ご辛抱ください。こう思うのは私だけでしょうか？ インフルエンザウイルスは完全に消えたのですか？ よかった、私だけではないのです。それって、興味深くありませんか？ なんという奇跡でしょう。「私たちは、インフルエンザウイルスをたまたま根絶しました！わお～」ではなぜ今だにインフルエンザの予防接種が

必要なのでしょうか？ では、質問に戻りましょう。 いい質問ですよ？ このワクチンを求めて 行列に並ぶ人たちでいっぱいになると思いませんか？ 実際はそうではありません。説得されています。説き伏せられているのです。躊躇いがあるからです。実際、統計を見ると… 私は自分が、何も信じられなくなるところまで来ていることが信じられません。私が信じられる唯一は、神の御言葉です。それが真実です。唯一の真実。では、なぜなのでしょう？ もしこのウイルスが、私たちが言われているように 致命的なものであるのなら… (それは嘘です) なぜ、大衆にワクチンを受けよう 説得しなければならぬのでしょうか？ 先週、偶然このスクリーンショットを見つけ、興味深いと思いました。元大統領のクリントン、ブッシュ、オバマ全員が テレビ上で予防接種を受けると申し出ている様子が映し出されています。そうなんですか？ どうしてでしょう？ なぜなら彼らはワクチンが安全だということを示したいからです。なるほど。聞いてください。私は、頭の回転が速い方ではありませんが、いい加減にしてくださいよ！ からかっているのですか？ あなたは、私がそんなにバカだと思っているのですか！？ どなたか「そうです。」と仰いましたか？ 皆さんではありません。彼らです。彼らは、私たちがバカだと思っているのです！ そうに違いありません！ 私が言い出したことですね。「あなたがお聞きになったから、答えただけです。」 そうですね。皆さん、私にとって、これはクリスマス…ではなく、第二テサロニケ 2 章で預言されている 悪魔の欺瞞と強い妄想に酷似しているように見えてきました。9 節から 12 節までを読ませてください。

第二テサロニケ 2 章

9 不法のもの (反キリスト) は、サタンの働きによって現れ、あらゆる” 偽りの” 奇跡とされるしと不思議な業とを行い、

” 偽りの” これを覚えておいてください。後で戻ります。The Lie = (特定の) その嘘

10 そして、あらゆる不義を用いて、滅びていく人々を欺くのです。彼らが滅びるのは、自分たちの救いとなる 真理 (The truth=特定の真理—対照的) を 愛そうとしなかったからです。

11 それで、神は彼らに惑わす力を送られ、その人たちは ” (その特定の) 偽り” を信じるようになります。

12 こうして、” (その特定の) 真理” を信じないで 不義を喜んでいた者は皆、裁かれるのです。

もう一度言います。それが、イエス・キリストの救いを得ていない人たちに 次に起こることです。それは「嘘」です。「何が嘘か？」ではありません。「誰が嘘か？」ということです。そして、誰が嘘なのかというと、サタン自身に他なりません。イエスは、その特定の真理・真実です。サタンは、その特定の嘘です。

ヨハネの福音書 14 章 6 節

「イエスは言われた。『わたしは (その) 道であり、(一つの道ではありません。 ” その” 道です。) (その) 真理であり、(その) 命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができません。』

かなり狭き門です。イエスは仰いました。

「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。」

(マタイ 7:13)

「しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない。」 (マタイ 7:14)

興味深いのは、使徒パウロが、第二テサロニケ 2 章の、今読んだところより前の箇所、滅びゆく人々がその嘘を信じてしまうような、強力な惑わす力について述べていることです。ちなみに、それは私にとって、人々が実際にこれを信じる理由の一部を説明しています。強力な惑わす力がある程度、既に存在しているからです。そして、人々を騙しているのです。しかし、パウロがこの強い惑わす力について書く前に、その前に起こることについて書いているのをご存じですか？ 先に何が起こるのでしょうか？ 再び、尋ねてくださりうれしいです。皆さん尋ねられましたよね？ 彼は、携挙についてを語っています。それが先に起こると。反キリストが出現する前に、教会は取り除かれねばなりません。それが、「第二テサロニケ」2 章です。1 節から 4 節まで読んでみましょう。

第二テサロニケ 2 章

1 さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストが来られることと、（これよくお聞きください）その“みもとに”わたしたちが集められることについてお願いしたい。（彼が私たちのところへ、来られるのではありません。）

それは、再臨です。これは携挙です。私たちは集められ、主に引き上げられるのです。

2 霊や言葉によって、あるいは、わたしたちから書き送られたという手紙によって、主の日が既に来てしまったかのように言うものがあるが、すぐに動揺して分別をなくしたり、慌てふためいたりしないでほしい。

ここでちょっと止めます。それも今起きていることだと言ったらどうでしょうか？ 約 2000 年後の私たちの中には、既に患難時代に入っていると言う人たちがいます。いいえ、違います。動揺したり、慌てふためいたりしてはいけません。そして今、パウロはその理由を私たちに教えようとしています。これは神の御言葉であり、神の御言葉には最終的決定権があります。神が、最後の言葉をお持ちです。よろしいですね？ では、3 節、

3 だれがどのような手段を用いても、だまされてはいけません。（使徒パウロもこのような口調で言ったに違いありません。）だまされてはいけません。なぜなら、まず神に対する (departure) が起こり、さて、皆さんの中には私を見てこう言いたげです。「牧師先生。私の聖書には “Falling away/背教” と書いてあります。」「分かっています。少々ご辛抱ください。」

...まず神に対する反逆が起こり（出発/携挙）、（それから）不法の者、つまり、滅びの子が出現しなければならぬからです。

4 この者（反キリスト）は、すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して、傲慢にふるまい、ついには、神殿に座り込み、自分こそは神であると宣言するのです。

これは、以前話しました。今日はここには触れませんが、これは「ダニエル書 9 章 27 節」と一致します。7 年の患難時代の中間点に、私が反キリストの和平協定の一部になると確信している、新たに再建される第三神殿です。イスラエルがこの協定に同意する理由は、彼らが神殿を再建することができるからだだと思います。それは 7 年の患難時代の初期に起こるでしょう。7 年の患難のちょうど中間点で、反キリストは 荒廃をもたらす破滅を引き起こし、自分が神だと宣言します。それこそが、パウロがこの第二テサロニケ 2 章で書いていることです。預言者ダニエルが 9 章 27 節で語っていることです。では、この 3 節に戻りましょう。興味のある方のために、第二テサロニケ 2 章を通しての節ごとの「聖書の学び」を YouTube で公開しています。特に 2 章 3 節の部分です。実際遡ること 6 月 14 日に、私たちは学びの全てをこの箇所に費やしました。その中で、多くの人が「背教」と呼んでいるも

のが、実際には教会携挙である理由として、3つのことを取り上げました。「牧師先生、独断専行ですか？」はい、そうです。「待ってください。確信を持って、テサロニケ2章3節のことを言っているのですか？もしそうだとしたら、それはゲームチェンジャーですよ？」ところで、これで心が落ち着きませんか？私の心は落ち着きます。明日のニュースフィードがどうなるかご存じですよ？ワクチンが明日から配布されます。ご存知ですよ？ですからこれで私は落ち着くことができました。なぜなら私は、携挙が必ず先に起こるといふ神の御言葉の真理に支えられているからです。もし私が不安で、どっちつかずで煮え切らないなら、私はその表現を一度使ったことがあります、どなたかが仰いました。「私はどっちつかず/wishy-washyではなく、見張って見張って/watchy-watchyいます。」と。私は本当にそれが好きです。見張って見張る/watchy-watchy この件で私が、どっちつかず/wishy-washy だったら、私は大混乱です。行ったり来たりして、上がったたり下がったりします。曖昧で、不明瞭で、不確かです。しかしそうではありません。それは明確です。それは確かなことです。だからこそ、自分が何を信じているのかを知るだけでなく、自分がなぜそれを信じているのか、その理由を人に伝えられるようになることが大切なのです。ところで、人に、「次に携挙が起こる。まずそれが先に起こるはずだ。私の牧師であるJD先生がそう言っていたから。」などと言わないでください。それはやめてください。あなたの中にある希望、祝福に溢れた希望の理由を、人々に与えられるようになるべきです。

「神のラッパが鳴り響くと、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、それから、わたしたち生き残っている者が 空中で主と出会うために、引き上げられる（携挙される）のです。」

（第一テサロニケ4：16-17 参照）

さて、これが私の言いたいことです。私たちが、聖書によって、最終的に7年間の患難時代に成就すると知っている全てのことが、今すでに起こり始めています。そうですね。同意されますか？7年間の患難時代に、最終的に成就されようとしているものがすべて、今、既に実現し始めています。イエスは仰いました。

「これらのことが起こり始めたら、身を起こし、頭を上げなさい。あなたがたの贖いが近づいているからです。」（ルカ 21：28）

どうかご辛抱ください。今から言うことによって、私が正気を失ったと思う方もおられるだろうと理解しています。もちろんそれは、もともと正気を保っていたことを前提にしていますが、しかし、私はそれを言わなくてはなりません。携挙が、宇宙人による拉致だと説明されるのではないかと思います。一警報音ー（笑）サタンはバカではありません。彼は非常に知的です。非常に知的に創造された存在です。彼は、既にかかなりの時間をかけて、実際には何十年も前から、この為に人類への準備をしてきました。私は、はっきりと、公式に意見しておかなければなりません。UFO（未確認飛行物体）は、悪霊です。宇宙人、地球外生命体。彼らは悪霊です。悪霊です。正気を失ってしまったついでに、もう一步踏み込んでみようと思います。もう一步踏み込んで、私は、私たちがAI（人工知能）として知っているものも、悪霊だと思っています。それはただの“人工”知能ではなく、“悪魔的”知能だと思っています。そこまでにしておきます。あとは、聖霊様にお任せします。しかし、考えてみてください。携挙が起きて、人々がいなくなり、彼らは、「よかった！やっと彼らがいなくなった。」と言います。

「邪魔者がいなくなった！」と。彼らがいなくなった今、水瓶座のニューエイジを始めることができます。「何ですって？！うわあー。牧師先生、大丈夫ですか？」もちろんです。大丈夫です。木曜

日、イスラエルのタイムズ・オブ・イスラエル紙は、ある報告書を掲載しました。30年間イスラエルの宇宙安全保障プログラムを率いてきたイスラエルの宇宙長が、宇宙人は存在し、（お聞きください。）イスラエルとアメリカは、以前からずっと彼らと接触していると主張するものです。同じく木曜日に、エルサレムポストがこの報告書について報道しています。「（この宇宙科学者の）彼は、イスラエルと米国の両方が長年に渡り、エイリアン（悪霊）に対処してきたことを説明した。87歳の元防衛省宇宙課長は、宇宙人（悪魔）と米国との間で、どのような協定が結ばれているかについて更に具体的な説明を行った。それは表向きには、“宇宙の構造”を研究・理解するという目的で結ばれた。これが本当ならば、ドナルド・トランプ米大統領による米軍第5分隊としての宇宙軍創設とも一致する。しかし、米国と、報告されている地球外の同盟国（悪魔）との関係が、もし実際に存在したとしても、どれほどの期間続いているのかは不明である。しかし、エシェット氏は、トランプ氏がそれらの存在を認識しており、彼はそれらの存在を明かす「寸前」だったと主張している。しかし銀河連邦が、集団ヒステリーを防ぐために、それを止めたと報じられた。彼がなぜ今、この情報を明らかにすることを選んだのかについては、エシェット氏は、このタイミングは、単純に学術的状況が大きく変化したこと、そして彼が学会でそれほど尊敬されていることによるものだと説明。彼はこう説明しています。一引用一『5年前にこんな話をすれば、私は入院させられていただろう。』入院といえば、これにも触れておこうと思います。「クリスマス・スター」と呼ばれているものです。今日から8日後、12月21日です。皆さんご存知でしたか？冬至の日です。私は正気を失っていません。まだ、幾つかのビー玉（正気）は残っています。月曜日、ザ・サン社は、水瓶座で木星と土星が合体するという、一生に一度の珍しい宇宙イベントが起こることを報道しました。引用します。「木星と土星は今月、800年ぶりに稀な“二惑星”現象を形成するほどに接近する。この出来事を「クリスマスの星」や「ベツレヘムの星」の形成だと言及している人もいれば、黙示録と結びつけている人もいます。」もちろんそうでしょうね。彼らはいつもそうです。キリスト教、特に聖書預言の教師や学生に汚名を着せるのです。その日、その時は誰も知りません。（マタイ 24:36）私たちは知ることができません。さて、なぜ私はこのことを話しているのでしょうか？その理由は、ニューエイジがこれを、水瓶座の時代の幕開けと見ていることに注目すべきだからです。用心深く慎重な方なら、ネットで21日のこのイベントについてニューエイジの人たちが何を語っているのか、調べてみることをお勧めします。大変興味深いですよ。彼らはこれを「大いなる覚醒」と同義視しています。以前にも話したことがあります。更に広い意味では、世界全体がこの大覚醒を、混沌から秩序をもたらす、灰の中から甦る不死鳥のように見てください。それが嘘です。ちなみにそれは、1ドル札の裏にあります。これです。ご存じですよ？これが真実です。これは偽物の、ルシファーの光です。ちなみにルシファーは光の担い手という意味です。彼は光の天使を装っています。これは大いなる欺瞞である「偉大なる再設定」の名目で暗闇から出る、偽物のルシファーの光です。それは、偉大なる嘘です。「偉大なる再設定」をご存じない方のために、簡潔に言わせていただきますとそれは第二テサロニケ2章にある”大いなる欺瞞”であるだけでなく、偉大なる患難時代を実現される、デジタルIDと人工知能の融合、最終的に、トランスヒューマニズムに繋がります。もはやDNAが人間のものではありません。トランスヒューマンです。ノアの時代に、悪霊が女性と性交渉をし、血統やDNAを破壊したように、こんにちも悪霊は、ノアの時代同様、人間のDNAを破壊します。それが既に起きています。このように言わせてください。ご自分で調べてみてください。お聞きください。私に調べられるなら、皆さんにもできます。よろしいですね？

私は、高等学校教育しか受けていません。 誇れることではありませんが、かろうじて卒業しました。ですから、私にこれが理解できるなら、皆さんもこれを理解することができます。私の言葉を鵜呑みにしないでください。ご自分で調べてみてください。慎重に用心深く行なってください。世の中にはとんでもないものが沢山ありますから。しかし、神は、識別力を与えてくださいます。神に識別力を求めてください。そして常にいつも、必ず、すべてのことを聖書のレンズを通して見てください。これが最終的な権威であり、最終的な言葉です。ですので、私が携挙が近いと信じている理由は、私たちが話している今も、すべてのことがすでに、猛烈なスピードで起こっているからです。何年も前から計画されていました。2019年5月、世界経済フォーラムの創設者であるクラウス・シュワブ氏は、第四次産業革命と呼ばれるものについて、シカゴ・カウンスル・オブ・グローバル・アフェアーズで講演しました。もちろん皆さん最初は、「それはいいね!!」と思うでしょう。よくありません。この会議からの引用をお聞きください。この中でシュワブ氏は、第四次産業革命とは実際には何なのかについて説明しています。引用します。「第四次産業革命がもたらすものは、我々の物理的、デジタル的、生物学的なアイデンティティの融合である。」私たちの生物学的アイデンティティとは何でしょうか？ DNA です！ DNA です。「ちょっと待ってください 牧師先生。」「わかった気がするのですが、説明していただけますか？」では、できるだけ簡単に説明してみます。サタンは、患難時代に人間の DNA を破壊することに成功します。それは、悪魔的な知性によって行われ、生物学的に DNA を破壊します。そしてそれは、既に起きています。今既に起こっています。だからこそ私は、今にも携挙が起こると信じています。もしこれが今すでに起きていて、携挙が先に起きるとしたら、そして実際起きますが、携挙はいつでも起きる可能性があるということになりますね？それが私の言いたいことです。「牧師先生、その指摘はもっと簡単にできたのではないのでしょうか？」できません。自分の要点を伝えるためには、これら全てを見ていく必要がありました。それが最終要点です。冒頭に触れましたが、これら全てが起きているということだけではありません。全てのことが、起きている速さです。私たちが上に上がり、突然破滅が下るのは、もう時間の問題だと思います。別の言い方で、言わせてください。すべてのものが今、同時に、急速に起こり始めているということは、突然の破滅が下り、私たちが上に上がることを示しているのではないのでしょうか。第一テサロニケ5章3節。皆さんこれを良くご存じですね。

第一テサロニケ5章3節

「人々が、『平和だ。安全だ(無事だ)』といっているその矢先に、(原語では『安全』『無事』は同じ言葉です。)突然、破滅が ” 彼らに ” (キーワード) 襲うのです。...

それが ” 突然の破滅 ” というものです。突然です。深遠な話ですが、それがこれから起こるのです。それは突然起こるのです。パウロはそれを、救い主が仰ったように、『妊婦に産みの苦しみがやってくるのと同じで、 ” 彼らは ” (キーワード) 決して逃れられない』と例えています。その意味は？ 私たちは逃げるといことです。この突然の破滅が起こり、彼らは、逃げられませんが、私たちが、逃げることはできるのです。私が『偉大な脱出』と呼ぶ、教会携挙です。私たちが、 ” 彼ら ” ではありません。パウロは、実際全書簡を通して、テサロニケ人への手紙の第一と第二の手紙の中でも、区別しています。彼は、 ” 私たち ” と ” 彼ら ” を区別しています。 ” 彼ら ” は逃げられない。生きている ” 私たち ”、生き残っている ” 私たち ” は、引き上げられる。ラテン語のバルゲート訳ではラプトロス。ギリシャ語ではハルパズ。私は、携挙/ラプチャーと訳されたラプトロスの方が好きです。ラプ

チャーの方が速く聞こえます。 ハルパズの方が遅いような気がします、ハ〜ル〜パ〜ズ。豆の種類みたいです。ガーバンゾービーンズ、ハーパズビーンズ。 ラブチャーの方がよっぽど好きです。私たちは逃げます。彼らは逃げられません。 突然の破壊が来る時です。突然の破壊はいつ来るのでしょうか？ 二つの言葉を口にして時です。「平和と安全。」 安全とは、興味深いです。健康なときに？ ちょっと様相が変わりますよね。宿題を出してもいいですか？ もちろんいいですよ。イザヤ書 24 章です。イザヤ書 24 章全体に時間を費やすことをお勧めします。本当はもう少し時間をかけて読みたいと思っていたのですが、時間の都合で、1 節を読んでみることにします。これが、次に来るものです。この世界に来るものであり、逃れられない人たちに起こることです。

「見よ、主は地を裸にして、荒廃させ 地の面をゆがめて住民を散らされる。」 (イザヤ 24:1)

それが来ようとしています。 **第二ペテロ 3 章 3~9 節**を読みたいと思います。 聖霊によって、使徒ペテロが書いていますが、今の私たちにはとても確だと思えます。

「まず、次のことを知っていなさい。終わりの時には、欲望の赴くままに生活してあざける者たちが現れ、あざけて、」

「こう言います。『主が来るといふ約束は、いったいどうなったのだ。父たちが死んでこのかた、世の中のことは、天地創造の初めから 何一つ変わらないではないか。』」

しかし、これは興味深いです。

「彼らがそのようにいうのは、次のことを認めようとしなからず。すなわち、天は大昔から存在し、地は神の言葉によって水を元とし、また水によってできたのですが、」

「当時の世界は、その水によって洪水に押し流されて滅んでしまいました。」 (ノアの時代の洪水です。)

「しかし、現在の天と地とは、火で滅ぼされるために、同じ御言葉によって取っておかれ、不信心な者たちが裁かれて (ここに同じ言葉が出てきます) ”滅ぼされる” 日まで、そのままにしておかれるのです。」

「愛する人たち、このことだけは忘れないでほしい。主のもとでは、一日は千年のようで、千年は一日のようです。」

「ある人たちは、遅いと考えているようですが、主は約束の実現を 遅らせておられるのではありません。そうではなく、一人でも滅びないで 皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。」

それが全てです。誰かが滅びることは、神の御心ではありません。神は悪人を裁いたり、罰したりすることを喜ばれません。神は、人々が悔い改め、 イエス・キリストの救いを得ることを喜びとされています。それは、こんにちの私たちへの呼びかけだと思えます。

「耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。」 (ヨハネの黙示録 2:29)

神の御霊は、神の教会に何と仰っているのでしょうか？ 悔い改めることです。悔い改めです。裁きが下ろうとしています。遊んでいる場合ではありません。キリスト教ごっこ、教会ごっこをやっている場合ではありません。永遠が、もう戸口まで来ているのです。教会携挙が、既に戸口まで来ています。もういつ起きてもおかしくありません。携挙が起こる前に、起きなければならないことはありません。

これがこの数年間、毎週の「聖書預言・アップデート」を続けてきた最大の理由です。警報を鳴らし、警告のラッパを吹くためです。そして常に、イエス・キリストにある 救いの良い知らせ・福音で締めくくるためです。「救いの ABC」という、子供にでもわかる、簡単な救いの説明です。

福音とは何でしょうか？ 福音とは、良い知らせです。あなたは自由の身です。なぜなら、イエスが来られ、あなたのために、あなたの代わりに死なれ、葬られ、3 日目によみがえられたからです。そして彼は、ある日、まもなく戻って来られます。それが良い知らせ、それが福音です。第一コリント人への手紙 15 章、また第一テサロニケにある通りです。救いの ABC とは何でしょうか？ 永遠の命という贈り物、イエス・キリストにある救いの 良い知らせについての簡単な説明です。

A：自分が神に背いた罪びとであるのを、また 自分には救い主が必要であると Admit/認める または、Acknowledge/認識する。ローマ人への手紙 3 章 10 節にはこう書かれています。

「正しい者はいない。一人もいない。」

ローマ人への手紙 3 章 23 節がその理由を教えています。

「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっている。」

私たちは生まれながらにして罪人なのです。ですから、イエスが仰るように、神の御国に入るためには、新生しなければならないのです。ローマ人への手紙 6 章 23 節は、私たちの心の石版に刻まれているべきものです。これが私の意味することです。人々を見る時、私たちが自問すべきことは、「彼らは救われているか？」ということです。なぜなら、もし救われていなければ、彼らは、地獄で永遠に過ごすことになるからです。実はこれは、第二礼拝で話すことです。今は第二礼拝の説教はしたくありません。しかし言わせていただきます。これが私たちが話すことですどうぞ参加されてください。私がこう言った後では参加されたくなくなるかもしれませんが。聖霊様、お助け下さい。私の言葉に恵みを添えて下さい。人々は死んでいき、地獄へ行っています。それなのに、私たちは言い争っています。衝突しています。全ての人と、全てのことに於いてです。ソーシャルメディア上でイエスの御名前によって 投稿し、非難し、冒涇しています。救われた人と口論しているのです。私たちは失われた人に手を差し伸べるべきです。恐らく私は、神が私の心を どのように変えてくださったか話すべきなのかもしれません。このことにおいては、私も他の人と同罪です。神はたった今、私に自分の罪を自覚させてくださいましたお気づきになりませんか？ 私たちが、失われた人に手を差し伸べる代わりに救われた人と口論する時、それはサタンが狙い通りだということを。私たちはサタンが望む通りのことをしているのです。第二テモテでそれについて話します。3 章 26 節です。パウロは、ある種の嘆願をしています。「テモテよ、彼らが気づくことができるよう、私たちは祈るべきだ。」

「彼らは、悪魔の望むことを行うために、悪に捕らわれていることに気づいていない。」と。

悪魔の望むこととは何でしょうか？ 盗み、殺し、滅ぼすことです。（ヨハネ 10:10 参照悪魔は、あなたの証人を滅ぼしたいのです。質問させて下さい。これは私も自問することです。あなたがたった今ソーシャルメディア上で 非難しまくった人が、イエスのもとへ来たいと思うのでしょうか？ そんな投稿をしておきながら、あなたはどのようにして、その人を主のもとへ導くのですか？ どのようにして、その人に主のことを話すのですか？ 恥を知るべきです。私もです。私たちは、全てのことに於いて言い争っています。覚えておいて下さい。失われた人は、私たちを見えています。そして、「本当に？ そんなイエスなんかとは一切関わりたくない。」 と思います。ローマ人への手紙 6 章 23 節がすべてを物語っています。

「罪の報酬は死です。しかし、神の賜物は 私たちの主キリスト・イエスによる永遠の命です。」

救われて、イエスにある人は、携挙で上へと上がり、失われた人は、7年間の大患難時代に入ります。それが要点です。それが全てです。

B：あなたの心で、イエス・キリストが主であると 神がイエスを死からよみがえらせたことを、Believe/信じる。

「心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。」（ローマ 10:9)

「救われるかもしれない」「救われうる」「救われるはず」ではなく、「救われる」のです。陪審員はもういません。判決の時です。「完了です。無実です。」「私は有罪ではないのですか?」いいえ。「一体どうしてそんなことが可能なのですか?」あなたは今、キリストにあって義とされているからです。そしてそれがCです。

C：主の御名を Call/呼び求める、Confess/告白する。

あるいは、

「口でイエスは主であると公に言い表わし (confess)、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。」（ローマ 10:9-10)

そしてこれがその理由と方法です。

「実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。」（ローマ 10:10)

ちなみに言わせていただきますが、全ての舌が公に告白し、全ての者がひざまずきます。全ての舌が言い表すのです。（ピリピ 2:11)

今、イエスが主であることを口で告白する人は、救いに到達します。救いのために告白しなければ、いずれあなたがひざまずき、イエスが主であると公に告白する日が来ますが、それは天罰を受ける時です。違いが分かりますか?

『主の名を呼び求める者は誰でも救われる。』（ローマ 10:13)

私は懇願します。嘆願します。心からお願いします。あなたが今までに主の御名前を呼び求めたことがないなら、今日こそが救いの日です。イザヤはこう言います。

「主を尋ね求めよ、見出し得るときに。呼び求めよ、近くにいますうちに。」（イザヤ書 55:6)

永遠の命のための最も重要な決断を先延ばしにしないでください。時が近づいています。近づいています。差し支えなければ、あと2分だけ時間をください。先週の素晴らしいお知らせの続きを、お話ししたいと思います。私の友人であるジムとクリス・コートの新ウェブサイト『マスターズタッチ・プリント&メール』についてです。「私たちは、皆さんが5人の名前と住所を提供し、無料で救いのABCを大切な人たちに郵送できるよう設定しました。すでに先週5つの名前を提供された方は…ちなみにそれらは、先週の木曜日に郵送されました。さらに新たな5人に郵送することができます。そして、その人たちに3つの内の2つ目のメッセージが郵送されます彼らはメッセージ第2号を、既に受け取った名前と、新たに受け取る全ての名前宛に郵送します。」リンクはこの動画下の概要欄にあります。メッセージを送りたい人を追加したい場合は、そのウェブサイト上で、5人まで入力可能です。その人たちは、2つ目のメッセージを受け取ります。そして、最初のメッセージを受け取った人もです。ちなみにこれは匿名です。だからと言って、あなたが彼らに連絡する必要はないというわけではありません。ともかく、彼らはこのメッセージを受け取ります。ですので今週の木曜日までには…ち

なみにその日はまだ、クリスマスイブではありません。念のために。間違えないようにしてください。今週の木曜日までには、2つ目が郵送されます。そして、同じ日に、最後のメッセージをアップロードします。これは実は、挨拶状のようなものです。彼らはいく、既に約 6000~7000 通の第一メッセージが郵送されたそうです。そして私たちは、この数は増えると予想しています。主を褒め称えます。そして、興味深いことに、これをやりたいという他の教会からも問い合わせが相次いでいるそうです。最後に、皆さんがこれをソーシャルメディア上で共有し、広めることをお勧めします。失われた人に手を差し伸べましょう。「箴言」にある御言葉で締めくくります。ところで、今週は出来ませんでした。来週は、沢山の方々の証があります。主の御心であればシェアしたいと思います。素晴らしく創造的な方法で福音を伝え、救いの ABC を失われた人たちに届けようとしている方たちがいます。とてもすごいです。ですので、主の御心であれば来週ご紹介したいと思います。しかし、「箴言」にこうあります。「知恵ある人は多くの魂をとらえる。」(箴言 11:30)

ご起立ください。祈りましょう。皆さんのご忍耐に感謝します。主よ、本当にありがとうございます。主よ、聖書預言に感謝します。それは正に目安であり、指標です。それによって私たちは、この終わりの時の世界の霊的な温度を測ることができます。それは、あなたが私たちのために戻ってこられる日がどれほど近いのかを示す指標です。主よ、この世界を見て、今日あなたの御言葉にあるものを学び、そして、それがいかに結びついているのかを見ると、辿り着く結論はただ一つです。その結論とは、あなたが起こると仰ったことが、今起こり始めているということです。正にあなたが仰った通りにです。ですので主よ、これが必要のある効果を二重にもたすことを祈ります。まず、失われた人々が、今日あなたを呼び求め、救われますように。今日が彼らの救いの日となりますように。第二に、主よ、救われている人たちを、私も含め、お赦してください。主よ、どうかお赦してください。私たちは悔い改めます。悔い改めます。主よ、私たちは、もっと真剣になることをお約束します。なぜなら私たちが生きる今は、永遠の生死に関わるほど深刻だからです。主よ、ありがとうございます。マラナタ。早く来てください、主イエス様。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7